

SHS プロジェクト支援実践 学修活動 計画申請書

提出日： 年 月 日

SHS プロジェクト支援実践 担当教員 殿

表題の計画書を所定の期限前（活動実施の一週間以上前で、可能な限り早く）に提出しますので、審査をお願いします。（提出先は世話役担当教員にメールで）

1. 申請者（学生本人）の情報

学院・系・ コース名	学院		コース	研究室
学生番号	名前			
E-mail				

※学院・コース名は社会・人間科学コース以外の人のみ記載

2. 学修活動計画について

① 1 単位 4 5 時間（実務が 3 0 時間以上）に相当することがわかるような学修活動計画の詳細
② 上記の学修活動計画のどこでどのような工夫をすることで以下の能力等の向上を図るか ・大学院の授業をより良く行うための課題設定力・実践力・解決力： ・教員や学生とのコミュニケーション力：
③ 目標達成を自己評価する観点や、担当者から評価して欲しい観点（学習活動計画と関連づけて）
④ アントレプレナーシップ科目としての認定を受けようとする場合、それにふさわしい活動であるとする根拠 ・ GA0D： ・ GA1D：

※枠線は、適宜、動かしてかまいません。次のページを使ってもかまいません。

※活動の内容やスケジュール、実施場所等、詳細がわかるような資料を添付してください。

※本授業は、集中講義として開講します。支援実践業務（実務）は、授業中の活動に限定せず、レポート課題や資料、ワークシート等の作成、レポートへのコメントなど、多岐にわたるものが想定されます。それらを実務と捉え、それらの活動を行うための自己学習（例えば、文献購読など）は実務以外の学習活動として活動計画に含めることができます。なお、実務のみで 4 5 時間にすることも可能です。①では、実務に該当する箇所を明示するようにして下さい。

SHS プロジェクト支援実践 終了報告書

提出日： 年 月 日

SHS プロジェクト支援実践 担当教員 殿

表題の報告書を所定の期限（参加した修士中核科目の授業終了後 14 日以内）に提出しますので、審査をお願いします。

1. 申請者（学生本人）の情報

学院・系・ コース名	学院		コース	研究室
学生番号		名前		
E-mail				

※学院・コース名は社会・人間科学コース以外の人のみ記載

2. 支援実践実施内容（授業中の活動とその前後の活動を含めて45時間分の内容を具体的に）

--

※枠線は、適宜、動かしてかまいません。次のページを使ってくださってもかまいません。

研修開始時・終了時における各事項に対する身に付けた能力の自己評価*					
（開始時を△、終了時を○で記入）					
	事 項	(低)1	2	3	4(高)
1	板書やプレゼンテーション等の仕方、教具の適切な使い方				
2	声の聞き取りやすさ				
3	教科書、教材の適切な使い方				
4	質問に対する説明のわかりやすさ・明確さ				
5	学生の理解度の確認				
6	学生の関心を高めるための工夫、学生の参加・討論を促す工夫				

3. 実施前後の意識変化（アントレプレナーシップ科目として履修した場合は、キャリア観の変化を含む）

4. 授業への貢献に関するアピール（自分の提案で授業改善が実現できたことなど）

5. 修士中核科目を今後より良くするために気づいたことなど

（例：学生としての立場から見て改善してほしい点、学生の受講態度で感じた点等）